

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

「希望と期待に応える」

足立区立 第九中学校

三年 羽吹 紗彩

新しい学年に進級し、新しい教科書が配られると決まって先生が「この教科書は国民の人々が払ってくれている、税金のおかげで無償化され君たちの元へ届いているんだ。大切に使いなさい。」と言う。名前を書くために裏返すと、「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待を込めて税金によって無償で支給されています。」と書かれている。教科書の他に、いすや机黒板、パソコンや実験用具など学校で生活する上で欠かせないものが税金によって支給されていることに驚いた。

私はどのくらいの税金が使われているのかあまり、考えたことがなかった。私たちの教育のために使われる税金に興味がわき、調べてみることにした。

教育に使われる税金は全体で五兆六千億円を超えていた。そのうち教科書無償配付などの教育振興助成費は二兆円を超えることがわかった。それだけでなく学校の校舎や体育館も文教施設費という形で税によって賄われていることがわかった。

税金を負担している割合もちがう。例えば教科書は国が十割、実験用具は国と区市町村で五割ずつ負担されている。ということは国だけでなく、私が住んでいる足立区でも教育に対して税金が使われるのだろうか。やはりそうだった。特に足立区では子供の人数が多いため、教育に対して税金が納められることが多い。修

学旅行費無償化、給食費無償化など様々だ。

無償化ということは、私たち学生やその保護者は支払わず、私に関わりのない人が納めてくれているということだ。

中学生の私。まだ消費税しか納めたことがない。両親は税金を納めることと教育費の無償化についてどう思うか聞いてみた。税金を納めることに対して、「生活が豊かになってあなたたちが将来暮らしやすくなるようにってあなたたちのために納めているかな」と言った。無償化については、「本当に助かるし、見ず知らずの子供たちのために納めてくれているのはきつとママと同じ気持ちで納めてくれているんだと思うよ。」と微笑みながら言った。

私も母の意見に同感だ。きつと教育のために税を納めてくれている人々は、教科書の裏に書いてある「これからの日本を担うみなさんへの期待をこめて」を思ってくれているんだと思う。私の学校生活は、税金を納めてくれている人の支えと希望と期待で満ちあふれている。私たち学生は物を雑に扱ったり、無駄にしてはいないだろうか。給食や修学旅行もただ楽しむだけでいいのだろうか。その裏では、汗水たらして私たちのため、納税をするため働いてくれている人々を忘れてはいけない。だから、しっかりと学習できる環境に感謝し、人々の期待に応えられるような社会に貢献する納税者になりたい。